

水資源・環境学会 2025 年度研究大会
報告要旨

【自由論題】

① 硯洗いに用いるハス葉面の朝露の水質と硯水との関係

報告者：○河野忠(立正大学)・松田真歩(東京ガスネットワーク)

旧暦の七夕(8月4日前後)に、その日の朝顔の葉面に付着した朝露で硯を洗いその水で習字をすると字が上手くなると伝えられている。そこで、本研究はその朝露に科学的根拠が存在するかを確認するために、8月4日前後における朝露と降水の水質を観測し、朝露の濃縮率と日毎の蒸発散量との関係を明らかにすることを目的とする。観測は2022年7月1日～8月15日間で、埼玉県「古代蓮の里」において行田蓮を対象とした。午前6時前後にスポットにより葉の上から採取し、水質を測定した。朝露の水質は日変化がとても大きく、無降水日が続くとEC(電気伝導度)が高くなった。ところが8月1日～6日までは好天が連続したにも関わらずECが低く、溶存成分の値が小さかった。8月4日前後は1日の気温差が大きくなっており、放射冷却が強いことから採取量が増加した。それに伴い朝露は蒸留水に近い水質となった。8月4日前後は例外的に降雨がなくても採水量が増加することが分かった。